

2024年8月21日（水）

『 インターアクト部活動報告・甲子園報告 』

1. 岐阜城北高校インターアクト部活動報告

皆さま、こんにちは。本日はお招きいただきありがとうございます。部長の安達さやか、副部長の林美伶と伊藤寛太です。どうぞよろしくお願ひいたします。現在、インターアクト部は3年生が引退し、1年4名、2年15名の計19名で活動しています。それではまず、令和5年度後期の活動からご説明します。

12月10日行われた「インターアクト岐阜・西濃グループ協議会」では、各校が集まり、日頃の活動の報告を行いました。大変お忙しい中、ロータリークラブの渡辺さんも一緒に参加してくださいました。

また、国際理解活動として、「コートジボワールの子どもに古靴を送る活動」を行うことにしました。この活動は令和4年度もPTA活動ですで行っていましたが、令和5年度はインターアクト部中心に行うことにしました。まず、この活動について理解するために、1月31日、本校にコートジボワール出身で岐阜市在住のカクさんを招待し、コートジボワールの子どもたちの現状や、古靴を送る活動の意義等をお伺いしました。私は、貧しさゆえに、靴が買えず、裸足でサッカーをして、足を怪我している子どもたちがいるということをお聞きし、すぐこの活動をして、コートジボワールの子どもたちに古靴を送りたいと思いました。

3月1日卒業式後には、多くの3年生の上靴を回収することができ、NPO法人ぎふ・コートジボワール様から、感謝状を頂きました。この活動は今年度も行いたいです。

ここからは、令和6年度の活動です。

まず、年間を通じての活動として「ペットボトルキャップの回収・洗浄」活動があります。今年度はまだ回収業者に搬入していませんが、「小森産業」さんを通じて、ポリオワクチンを購入するお手伝いができたらうれしいです。

次に、「アイシティ ECO プロジェクト」です。現在、生徒会活動と連携して全校生徒に呼びかけ、コンタクトレンズの空容器の回収を行っています。回収されたケースは、リサイクル工場で再資源化され 新たな製品になります。また、空ケースのリサイクル業務は障がいのある方が従事され、自立・就労支援にもつながっています。得た収益は「日本アイバンク協会」に全額寄付。視覚障がいのある方が視力を取り戻せるよう献眼登録の普及や献眼希望者が亡くなったときに角膜摘出医の手配をする活動をおこなっています。

また、校内外の行事として、第48回全国高等学校総合文化祭での運営補助員の仕事があります。7月31日から8月2日まで、補助員として裏方の仕事をおこないながら、貴重な経験をしました。

8月6日、長良国際会議場で行われた第47回インターアクト年次大会では、体調不良者以外全員が参加することができました。メインテーマは「受け継ぐ伝統 繋げる絆 広がる岐阜の魅力」で、岐阜工業高校がホスト校として、韓国交換留学生の発表や、分科会での交流を行いました。少しでも韓国の学生と交流するために、あらかじめ、韓国語と日本語で作ったオリジナルの名刺を渡しました。分科会では、ぼんぼり、絵手紙、タイルアート、フェルトメイキング、端材真鍮を使った小

物など、5種類のワークショップに分かれて楽しく体験しました。他校の生徒とも交流ができ、有意義な時間になりました。ご多忙の中、ロータリークラブの波多野さん、三木さん、渡辺さんをご参加くださり、ありがとうございました。

今後の予定としまして、紫翠祭での展示、体験を行う予定です。また、12月7日の岐阜・西濃グループ協議会では大変お世話になります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2. 「韓国3600地区年次大会交換留学派遣プログラムに参加して」

インターアクト部副部長 林 美伶 様

はじめに、このプログラムに参加させていただいたロータリークラブの皆さまに感謝いたします。本当にありがとうございました。

7月26日から7月30日 韓国へ行ってまいりました。韓国第3600地区京畿道（首都ソウル近郊）にホームステイをしたり、韓国の年次大会に参加、エバーランド（韓国最大級のテーマパーク）にも行ってきました。韓国の年次大会では、私たちと韓国のインターアクターが互いにパフォーマンスをし、盛り上がりました。ホストファミリーのキムジダムちゃんとは、大変気が合い、仲良くなりました。

今回の訪問では、普通の観光旅行では気付けなかったことが多くありました。例えば、「自分でコミュニケーションを取ろうとしないといけない！」ということです。自分の意思をはっきりと相手に伝えることが大切だということを学びました。

（その他、詳細は別紙報告書）

岐阜北ロータリークラブの皆さま、この度はこのような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

3. 硬式野球部の甲子園出場の報告・お礼

インターアクト部 顧問教諭 浅見小百合様

岐阜北ロータリークラブの皆さまには、日頃インターアクト部の活動のご支援をしていただきながら、今年度はさらに韓国派遣の生徒のご支援や、甲子園出場の際のバスの支援金等、大変お世話になりありがとうございます。今日はその時の様子を写真とともにお話させていただきながら、お礼を申し上げたいと思います。

岐阜城北高校野球部は、部員数64名・マネージャー4名で「明るく・厳しく・元気よく ～Attacking Baseball～」をモットーにして頑張っております。昨年の秋季大会、今年の春季大会ともに1回戦で敗退していたチームですが、夏の岐阜県大会では、ノーシードから勝ち上がり、9年ぶりに優勝することができました。私は個人的に3年生の担任をさせていただいており、ベンチ入りも含めて4名の生徒がクラスにおりましたので、ほぼすべての試合に応援をしに行き、生徒たちと一緒にメガホンを持って声を張り上げて応援しておりました。優勝した時には、生徒も教員も大喜びでしたが、それからすぐ現実が待っておりました。

「応援費用をどうしようか、寄付金を集めないとバス代がない。」という心配です。燃料代の高騰により、9年前よりバス費用が4倍かかるということでした。そんな折に、ロータリークラブの温か

い激励のお言葉と支援金をいただき、大変助かりました。本当にありがとうございました。

本校の甲子園出場が決まり、7月31日に全校生徒が登校し、野球部の壮行会を実施しました。壮行会後には、全校生徒で応援練習をしました。8月4日、対戦相手の抽選会が行われ、強豪校である「智辯学園」と、初日のナイター試合を行うことになりました。

8月7日応援当日は、バス16台で、いざ甲子園に出発しました。参加費として生徒は6千円、一般の方は1万2千円頂きました。猛暑の中、地域の方々も多くご参加くださり、ありがたい限りでした。

ナイターの試合は予定よりだいぶ遅れてスタートしました。応援席では、バスに乗る際に配布されたお揃いの帽子とタオル、メガホンで心を一つにして応援しました。ピッチャーの中本君は150球近く、一人で投げ、チームのエースとしてがんばってくれました。主将の富田君は、9年前、当時まだ小学生だった時、岐阜城北高校対中京大中京高校の試合で甲子園を訪れていました。彼も主将として、チームをうまくまとめてくれました。キャッチャーの細江君、彼は私のクラスの生徒ですが、7回の守りで大ピンチの時に、ピッチャーの中本君に言った言葉が、ニュースになっていました。その時、彼は「こうやってバッテリーで組めるのもあと少しだ。今、この時間を楽しもうよ」と言ったそうです。それを受けて中本君は気持ちが和らぎ、「相手チームの加点を最小点で抑えることができた」と振り返っていました。

城北のチームは残念ながら、タイブレーク制延長戦の末、6対9で惜敗しました。試合後、選手達が城北の応援席の前に整列し、富田君が声を振り絞って「皆さんの声援のおかげでここまでられました。本当にありがとうございました」と述べました。

試合には負けてしまいましたが、私たちは選手たちに「苦しい時こそ冷静であること」「最後まであきらめなきこと」「仲間と苦悩を共にしながら夢に向かって戦うことの素晴らしさ」など、本当にいろいろなことを教えてもらいました。

試合が終わってからすぐSNS上で、また、翌日の朝から学校に電話で、驚くほど多くの激励の言葉を頂きました。「城北さんの試合、感動しました」「公立高校なんですね。今まで知らなかったですが、これから応援しています。頑張ってください」「あの試合、勝ったと同じです」などなど……。皆さんに応援していただけて、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。応援していただいている方々をがっかりさせないように、襟を正してがんばっていかなければと思います。

最後になりますが、ロータリーの皆さまには、いつも変わらぬご支援をしていただき、感謝しております。

これからも、岐阜城北高校ががんばっていきますので、どうぞよろしく願いいたします。